

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	帯広市幼児ことばの教室		
○保護者評価実施期間	令和7年1月14日		～ 令和7年1月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	46名	(回答者数) 46名
○従業者評価実施期間	令和7年2月3日		～ 令和7年2月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月25日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・お子さんのことを理解した上で、お子さんと保護者のニーズや課題を分析し、発達段階に合わせた指導や支援を、個別のかかわりの中で行っていること。	・アセスメントやモニタリングを丁寧に行うことはもちろん、日々の指導の記録をきちんととることが習慣化されている。6か月ごとの計画書の見直しの際も、普段の記録を基に分析している。	・個別指導のため、担当者一人でお子さんの経過をみていくが、計画書の見直しの際には職員全員で会議をもっている。今後も、担当者一人だけの見解にならないよう、会議の場だけでなく普段から、お子さんを理解するための話し合いができるような職員間の関係性を維持したい。
2	・言語面を中心としながら全体発達を促していくという、専門的な支援ができていくこと。	・ことばの教室ならではの、言語面に特化した専門的な見立てができることを強みとしながら、お子さんの全体発達の状況を押さえ、必要な指導を計画に基づいて行っています。 ・保育士資格を持つ職員や教員免許がある児童指導員の他、言語聴覚士が2名おり、より専門的な支援を行っています。	・職員間における、専門的な指導の仕方についての内部研修の他、外部研修にも積極的に参加し、実践力を高めていきたい。
3	・保護者と担当者間で、お子さんについての共通理解をしていきやすいこと。	・毎回の指導において、マジックミラーから保護者に観察してもらい、また、指導後には保護者との面談時間を設けており、その中で、お子さんの現状や今後のことについて、タイムリーに話し合っている。	・心配なことや気になっていることについて、保護者が気兼ねなく質問できるような関係性を、今まで同様に築いていきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・事故防止マニュアル等の各種マニュアルや、避難訓練等について、整備はされていても保護者にきちんと浸透しきっていないこと。	・各種マニュアルを、いつでも手に取って確認できるような、わかりやすく配置されていない。	・契約時には口頭で伝えるだけでなく、各種マニュアルの置き場所を具体的に示していく等して、保護者に浸透するようにします。
2	・保護者同士の交流が少ないことやきょうだいへの支援が少ないこと。	・事業所としての保護者会がないことや、個別指導で指導中は保護者は観察室に入るため、他の保護者とちょっとした交流を持つこともしにくい。また、きょうだいに特化した交流の場を設けるに至っていない。	・父母の会を希望する保護者には「帯広地区ことばを育てる親の会」を紹介する。 ・同じ年齢の子どもや同じような心配をもつ保護者と話がしてみたいといった要望があれば、調整可能な限り対応する。 ・今後も、きょうだいに特化した交流の場を設定することは難しいと思われる。きょうだいに関する相談は、毎回の面談において相談してもらってよいことを、保護者に周知していきたい。
3			